

## 政府情報システムの整備の在り方に関する研究会（第7回）議事要旨

- 1 日 時 平成22年2月26日(金)16:30~17:45
- 2 場 所 九段合同庁舎14階 共用第1会議室
- 3 出席者
  - (1) 構成員（敬称略、五十音順）  
大山座長、奥村座長代理、座間構成員、曾我構成員、平本構成員、村上構成員
  - (2) オブザーバ  
内閣官房情報通信技術（IT）担当室、同情報セキュリティセンター、人事院職員福祉局、総務省行政管理局、同自治行政局、同情報流通行政局、同統計局、財務省主計局、同理財局、同会計センター、経済産業省商務情報政策局
- 4 議事概要
  - (1) 開会
  - (2) 議事
    - ① 研究会ワーキング・グループにおける検討結果報告  
資料 7-1 及び 7-2 に基づき、座間構成員より研究会ワーキング・グループにおける検討結果について報告があった。
    - ② 自由討議  
詳細は別記
  - (3) その他  
事務局より次回会合の予定等について説明があった。
  - (4) 閉会
- 5 自由討議
  - ・ システム開発も含め、一般的に、計画を作る際には良いことだけを並べる傾向がある。計画が絵に描いた餅とならないよう、計画策定時に問題点を突き詰めておくことが必要。
  - ・ 政府共通プラットフォーム導入の目的がコスト削減にあることを踏まえれば、今後、バックアップセンターも含め、整備に要するコストについても精査していくことが必要。
  - ・ 様々な留保条件の下で効果試算を行っているため、「数字」だけが独り歩きすること

のないよう、その取り扱いは慎重にすべき。また、次年度以降の具体化の作業の中で、再度、費用対効果を検証することが必要。

- ・ 経費削減効果だけではなく、政府全体として、システム要員をどのように確保・育成していくのか、要員の再配置・集約化等も含め、検討していくことが必要。
- ・ 例えば、仮想化ソフトウェアを利用して本当に稼働率 99.99%が維持できるのか等、前提としているフレームワークの技術的な実現可能性について、実績等を踏まえて注意深く検証することが必要。また、クラウドはある程度の規模があると対策を打ちやすいものであり、費用対効果を大きく見せるために余裕のないリソースでスタートすることは危険。まずはスモールスタートで、徐々に成果を上げていくという考え方が良いのではないか。
- ・ 政府共通プラットフォームで提供する共通機能等について、用意はしたが利用されないといった状況は避けなければならない。例えば、システム開発環境は本当に各府省のニーズがあるのか。
  - 現場レベルの感覚として、開発用の環境を用意する必要があるために、予定価格を超えてしまうということが増えてきている印象。特に小規模システム開発においては、ニーズが見込めるのではないか。
  - 様々な開発ツールをプロトタイプ的に利用したいといったニーズもあるのではないか。
- ・ ネットワークの帯域の確保、データセンターの設置場所等についても、今後検討を進めていくことが必要。